慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	わが国医薬品メーカーのR＆D政策とその成果の分析
Sub Title	
Author	内藤英次(Naitou, Eiji) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1984
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1984年度経営学 第362号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0362

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

№ 0362

学生氏名　内藤英次
（エーザイ株式会社）
所属ゼミナール　古川公成研

主査　片岡一郎
副査　古川公成
青井倫一

わが国医薬品メーカーのR&D政策とその成果の分析

本研究は、わが国医薬品メーカー26社におけるR&D投資とその成果について、3つのR&D政策に基づいて分析し、各R&D政策間の特徴や関係を分析することを目的とする。3つのR&D政策とは、(1)自社開発型vs導入型、(2)領域特化型vs分散型、(3)医家型vs薬局型、である。具体的な分析は、各R&D政策別に、R&D投資・技術成果・経済成果の関係について回帰分析および分散分析を行う。分析の結果、次のことが明らかになった。

(1) R&D投資と技術成果と経済成果との間には有意な相関関係が認められ、R&D活動は経営戦略の一環として重要性をもつ。

(2) 小・中規模メーカーは自社・特化型のR&D政策をとることにより高成長を遂げた。これは、自社の強みをもつ特殊領域に特化し、R&Dにおけるノウハウの蓄積と販売シナジーを生かすことができたことによる。今後自社・特化型が規模拡大するためには、導入・分散型を経て、自社・分散型へ移行すべきことが提言できた。

(3) 中・大規模メーカーは、導入・分散型と自社・分散型に多いが、今後分散型を維持しつつ、徐々に自社開発力を強化すべきことが提言できた。

以上のことから、医薬品メーカーにおけるR&D政策は、企業規模とその成長過程において選択されるべき性質のものであり、さらに、自社の強みと弱み、導入先とのパイプの太さ、自社の技術力などを考慮に入れた企業の総合戦略として位置付けるべきであるといえる。